

J A はだの

発行
秦野市
農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711(代)
発行責任者 小島 敏雄
印刷所 (株)JA情報サービス

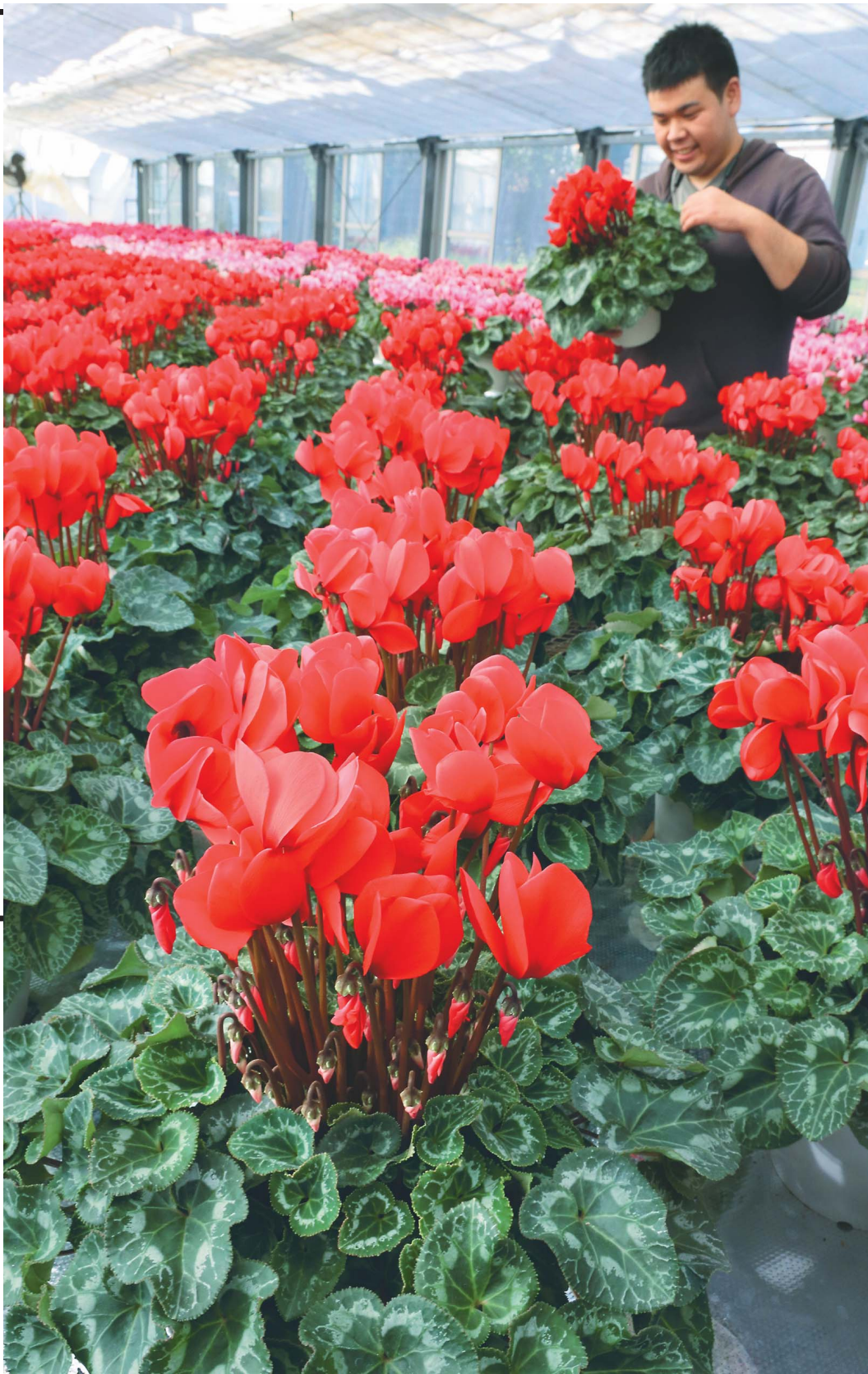
今月の特集 4～5面

展示や活動で秦野の花PR
県内有数の花の産地、秦野市。JAは、多くの消費者に花に親しんでもらおうと、展示などさまざまな取り組みを進めている。

ニンジン「アロマレッド」紹介FMヨコハマで放送
12月4日(土)午前8時から放送する、FMヨコハマ「JA Fresh Market」は、秦野産のニンジン「アロマレッド」を紹介します。



ベジフルDJの中矢邦子さんが、じばさんず「アロマレッド」を出荷している下大槻の石井佐一さん・登志枝さん夫妻の畑を訪ね、収穫を体験します。
お勧めの食べ方も紹介しますので、ぜひお聞きください。



北村さんが丹精して育てたシクラメン

シクラメンで冬を華やかに

市内で、シクラメンの出荷が盛んな。昨年就農し、奮闘する北村さん。一鉢一鉢丁寧に葉組みを始めた。花き部会鉢物部の部長は、じばさんずなどへの出荷に励んでいる。

堀山下の北村昌史さんは、贈答用として人気の高い6号鉢をメインに、約20種類を生産して



北村さんは「ボリウム」のあな花に仕上がった。贈り物や自宅での観賞用として、多くの人に楽しんでもらいたい」と笑顔を見せた。

生産緑地は、指定から30年が過ぎると、税制特例措置を受けられなくなります。1992年に指定した生産緑地は、2022年に30年が経過します。

最終受け付け 来年2月まで

引き続き同措置を受けるためには、特定生産緑地の指定手続きが必要です。30年を過ぎると移行できなくなりますので、指定手続きが済んでいない方はご注意ください。市は、92年指定分の移行最終受け付けを22年2月に予定しています。ご相談は各支所支店まで。

特定生産緑地の指定手続き

受賞に自信と誇りを

組合長賞受賞者を表彰



賞状と記念品を贈った表彰式

書道・図画・作文コンクール

JAはだのは3日、本所で書道・図画・作文コンクールの表彰式を開いた。コロナ禍のため、開催規模を縮小し、秦野市農業協同組合長賞を受賞した市内の小・中学生12人を表彰。宮永均組合長が、受賞者に賞状と記念品を贈った。

受賞者と作品は、機関紙「JAはだの」12月号で紹介する。

食味良く人気のニンジン「アロマレッド」いかが

JAはだのは9日、本所選果場でニンジン「アロマレッド」を今シーズンの初集荷した。播種(はしゅ)時期の8月上旬に雨が多かったため順調にニンジン特有の臭みが少ない。

く、食味の良さと色の鮮やかさが特徴の品種。香りがフルーティーで「ニンジンが苦手でも食べやすい」と消費者から人気を集めている。

集荷したニンジンは、JA全農かながわ中央ベジフルセンターを通じて、県内のAコープなどで販売する。



生産者がニンジンの品質を確認

生産者の一人は「天候に恵まれて品質の良いニンジンが収穫できた。ぜひ多くの人に食べてもらい、秦野産アロマレッドの味を知ってもらいたい」と話した。

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

J A 運営に反映 さらに発展へ

「上半期事業特集号」への意見・要望届く

例年9月末から10月上旬にかけて開催している「秋の座談会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前回同様、書面やメールでご意見やご要望をお寄せいただく方法に変更しました。

今回は、14人から38件の意見・要望が寄せられました。これらは、担当部署で検討を重ね、さらに理事会で協議しました。ここに主なものを報告します。

組合員の皆さまから寄せられた意見・要望を今後のJAはだの運営に反映させ、さらに発展させるように役立てていきます。

機構改革で販売力を強化

営農関係

【意見・要望】「第六次中期経営計画」骨子(案)における重点実践計画に盛り込む項目の「地産地消を中心とした販売力強化」で、じばさ1年4月の機構改革によるの販売拡大と、学校、営農課と店舗販売課

【回答・対応】2021年4月の機構改革によるの販売拡大と、学校、営農課と店舗販売課

(西)

【意見・要望】「第六次中期経営計画」骨子(案)における重点実践計画に盛り込む項目の「地産地消を中心とした販売力強化」で、じばさ1年4月の機構改革によるの販売拡大と、学校、営農課と店舗販売課

【回答・対応】2021年4月の機構改革によるの販売拡大と、学校、営農課と店舗販売課

(西)



中学校給食に関する協定書を締結

国の支援事業を活用

鳥獣関係

【意見・要望】秦野市有害鳥獣対策協議会捕獲報奨金の交付対象フロアにおいて、有害鳥獣捕獲後の止めさし・運搬・処理は、秦野市有害鳥獣被害対策実施隊以外が行ったものとなっているが、止めさしは実施隊が対応できるように検討すべきでないか。

【回答・対応】捕獲報奨金は、国の「鳥獣対策被害防止総合対策交付金」のうち「鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業」を活用して、捕獲・止めさし・運搬・処理の一連の工程を対象としています。

秦野市鳥獣被害対策実施隊(以下「実施隊」)が止めさしを行った場合は「鳥獣被害防止総合対策交付金」のうちの別事業である「鳥獣被害防止

【意見・要望】農業応援定期貯金預入者の組合員資格の内訳を教えてください。

【回答・対応】内訳は正組合員19・5%、准組合員56・4%、員外預入者24・1%です。准組合員・員外預入者の合計で、全体の80・5%を占めています。

【意見・要望】JAの組織運営にもっと若い人や女性が参画できるように取り組んでもらいたい。総代制へ移行したが、総代定数の3分の1程度は女性が参画しないと、今後の発展は望めないのではないか。

【対応・回答】総代制への移行を検討する中で、総代の女性の割合は、JA全国大会で決議された「総代における女性参画目標15%以上」を目標としました。現在の割合は県内JA平均で14・7%、JAはだのは18・2%です。今後も引き続き女性の運営参画、活躍推進に取り組んでいきます。

有人式での営業を継続

給油所関係

【意見・要望】東・西給油所の営業時間が短くなり、不便になった。開店時間を午前7時30分、閉店時間を午後7時30分もしくは、午後8時に変更してほしい。

【回答・対応】電気自動車普及が進む中、全国的に自動車用燃料の取扱量は年々減少してい

て、全国のガソリンスタンドの数はピーク時の約半数になっています。JA

【意見・要望】「第六次中期経営計画」骨子(案)が提示されたが、具体化した実践方針を明示してほしい。

【回答・対応】コロナ禍で一番影響を受けているのは、葬祭事業です。2020年度決算は、前年比の約65%の収益となっています。今年度は若干の意見を踏まえて各部署

【意見・要望】JAの各事業でコロナ禍の影響を受けているものはあるのか。

(西)

【意見・要望】東・西給油所の営業時間が短くなり、不便になった。開店時間を午前7時30分、閉店時間を午後7時30分もしくは、午後8時に変更してほしい。

【回答・対応】電気自動車普及が進む中、全国的に自動車用燃料の取扱量は年々減少してい

て、全国のガソリンスタンドの数はピーク時の約半数になっています。JA

【意見・要望】「第六次中期経営計画」骨子(案)が提示されたが、具体化した実践方針を明示してほしい。

【回答・対応】コロナ禍で一番影響を受けているのは、葬祭事業です。2020年度決算は、前年比の約65%の収益となっています。今年度は若干の意見を踏まえて各部署

【意見・要望】JAの各事業でコロナ禍の影響を受けているものはあるのか。

(西)



有人式の東給油所

女性の運営参画を推進

総代関係

【意見・要望】JAの組織運営にもっと若い人や女性が参画できるように取り組んでもらいたい。総代制へ移行したが、総代定数の3分の1程度は女性が参画しないと、今後の発展は望めないのではないか。

【対応・回答】総代制への移行を検討する中で、総代の女性の割合は、JA全国大会で決議された「総代における女性参画目標15%以上」を目標としました。現在の割合は県内JA平均で14・7%、JAはだのは18・2%です。今後も引き続き女性の運営参画、活躍推進に取り組んでいきます。

(西)

貯金で地域農業を応援

貯金関係

【意見・要望】農業応援定期貯金預入者の組合員資格の内訳を教えてください。

【回答・対応】内訳は正組合員19・5%、准組合員56・4%、員外預入者24・1%です。准組合員・員外預入者の合計で、全体の80・5%を占めています。

【意見・要望】JAの組織運営にもっと若い人や女性が参画できるように取り組んでもらいたい。総代制へ移行したが、総代定数の3分の1程度は女性が参画しないと、今後の発展は望めないのではないか。

【対応・回答】総代制への移行を検討する中で、総代の女性の割合は、JA全国大会で決議された「総代における女性参画目標15%以上」を目標としました。現在の割合は県内JA平均で14・7%、JAはだのは18・2%です。今後も引き続き女性の運営参画、活躍推進に取り組んでいきます。

(西)

日に「秦野市と秦野市農業協同組合との中学校給食における地場産品の活用に関する協定書」を締結しました。地産地消を推進し、地域に根差した食育と農業を地域ぐるみで振興しようというもの

です。安定した食材供給のためには、給食食材の必要量に対し、主要品目はJAと生産者間で出荷契約などをすることも視野に入れ、今後検討していきます。

子どもたちに安全・安心な農産物を供給するためには、生産者にとって励みになるような場面で設定できるよう、行政など関係機関に呼びかけます。

【意見・要望】「第六次中期経営計画」骨子(案)が提示されたが、具体化した実践方針を明示してほしい。

【回答・対応】コロナ禍で一番影響を受けているのは、葬祭事業です。2020年度決算は、前年比の約65%の収益となっています。今年度は若干の意見を踏まえて各部署

【意見・要望】JAの各事業でコロナ禍の影響を受けているものはあるのか。

(西)

ホールインワン目指し競う

グラウンドゴルフ大会



ホールポストへボールを打つ部員

女性部は8日、なでしこ運動広場でグラウンドゴルフ大会を開いた。スポーツを通じて部員同士の交流を深めるとともに、健康増進につなげることが目的。部員70人が参加した。

健康増進へ70人参加

女性部は毎年、球技大会 感染症対策のため中止して(バドミントンの部・ボウリングの部)今年も屋外の競技で、ケットボールの部)を実施 プレーの経験がなくとも気軽にできるグラウンドゴルフという大会を女性部全体で実施した。

部員は「ピーなマン体操」で準備運動をした後、試合を開始。16ホールを45人で回り、ボールを打つ強さや方向を確認しながら打数を競い合った。

大会の結果は次の通り。
▽優勝 中村江美子(南支部)▽2位 石垣きょう子(東支部)▽3位 守屋悦子(上支部)

次世代に伝統脈々

ふるさと料理教室 おやき作り伝授

女性部は12日、上公民館で「ふるさと料理教室」を開いた。地域で受け継がれてきた家庭料理や、手作りおやつ作り方を次世代に学んでもらおうと、市内の各地区で開いているもの。上幼稚園児の保護者7人が参加した。おやき作りに挑戦した。



具材を生地で包む参加者

参加者は、部員から作り方の手順やポイントを教わった後、2班に分かれて調理。秦野産の小麦粉とベーキングパウダーなどを混ぜ合わせた粉に、お湯を少しずつ加え、固さを確認しながらこねた。生地を薄く伸ばし、豚肉と漬物を炒めた具材



大豆の莢や茎を取り除く部員

収穫・脱粒に汗

大豆プロジェクト

女性部は5日、上大槻の畑で大豆の収穫と脱粒を行った。大豆の種まきから収穫、みそ造りまでを体験する「自給率向上!大豆プロジェクト」の一環で、部員の地産地消への理解を促すことが目的。42人が参加し、作業に汗を流した。

部員は、手分けして作業を開始。株を草刈り機で刈り取り、実が付いたまま機械に入れて脱粒した。その後、大豆に混ざった莢(さや)や茎を手作業で取り除き、目の荒いざるを使って細かい葉などを振るい落とした。収穫した大豆は、7月に部員が種をまいた「津

体操「瑠璃の会」

代表 増田 育英さん

いきいき女性部活動

私たちのグループは、結成3年目になります。会の名前は、瑠璃(るり)の宝石に「幸運のお守り」という意味があることから「みんなが幸せになれるように」と願いを込めて付けました。メンバーは現在15人で、月に1回上公民館の多目的ホールで練習しています。シニア向けのエアロビクス体操を中心に、ストレッチや「ピーなマン体操」も取り入れています。



活動では「RURI」のロゴが入ったそろいのTシャツを着て、明るい気分体操に励んでいます。いくつになっても元気で自分の足で歩けるようにして、寝たきりにならないことを目標としています。今後は、ボランティアで体操を通じて高齢の方々に元気になってもらえるような活動をしたいと考えています。

JAの取り組み学ぶ

本部役員研修会



家の光協会の来所記念で表紙を撮影

女性部は10月29日、東京都本部役員研修会を開いた。部員15人が「(一社)家の光協会」やJAグループがベンチャー企業を支援する「Agventure Lab」、JA

同協会では、月刊誌「家の光」の編集長が、同誌の歴史やコンセプトなどを解説。毎月の発行までの流れを紹介した他、編集部での作業内容を説明した。

支部だより

西支部
水引ブローチ作り
西支部は10日、西支所で水引ブローチ作りを行った。

ミカン狩り
大根支部は11日、本町支部は18日に市内の園でミカン狩りを行い、2支部合わせて32人が参加した。

大根・本町

本町支部は、名古屋の小泉繁さんが管理する



手順を確認しながら作る部員

JA全中を訪れ、女性部の収穫方法を教わった後、食べ頃の実を選びながらはさみを使って収穫した。ミカンはその場で味わった他、家に持ち帰った。

北支部

北支部は10日、北支所で切り絵教室を開いた。9人が参加し、同支部の久米章代さんから、バラやミズバショウの切り絵の作り方を学んだ。



切り絵作りは「家の光」2020年9月号の付録冊子を参考に制作した。部員は、カッターや定規を使って、台紙に描かれた図案を丁寧に切り取った。その後、赤やオレンジなどの紙を背景に重ねて完成させた。



ミズバショウの切り絵に挑戦

生育と出荷期確認 葉ニンニク研究会が巡回



葉ニンニクの生育状況をチェック

市民楽しませ装飾30年 花き部会



花を飾り付ける部会員ら

花き部会は2日、じばさんず 花研究会の五つの組織で構成し、つてもうきつけにしようの店内に、部会員が生産した花を飾り付けた。部会が11月3日から、市民の日に合わせて始まる「花の日」と定め、消費拡大を。消費者に秦野産の花を知ってもらおうと取り組んでいる。

花

展示や活動で消費者にPR

害虫防除学び 品種の見学も



花き部会バラ部は10月29日、会を開いた。同センターのバラ造販売する㈱ユニコの社員が講師を務めた。害虫であるアザミウマを防除するための手段として、防虫灯を紹介。赤色の光を発する発光ダイオード(LED)灯を点灯することで、アザミウマの行動を抑えられることを説明した。バラ農家が設置した事例も紹介し、薬剤の散布回数や減ったという実証結果を報告した。

部員は講習会の前後に、同センターで開かれた県のバラ品種検討会。講習会は、農業用防虫灯を製造販売する㈱ユニコの社員が講師を務めた。害虫であるアザミウマを防除するための手段として、防虫灯を紹介。赤色の光を発する発光ダイオード(LED)灯を点灯することで、アザミウマの行動を抑えられることを説明した。バラ農家が設置した事例も紹介し、薬剤の散布回数や減ったという実証結果を報告した。

菊花会が 成果披露



会場に並ぶ大輪の菊

菊花会は5日から9日まで、じばさんずの敷地内で、菊花展を開いた。会員12人が、丹精して育てた菊を出品。色鮮やかな大輪の花は、来店者の注目を集めた。

会員は毎日菊を観察して、日や輪台の設置などのタイミングに当てる時間や水やりの量などで講習会を開き、会全体で情報を適切に管理。菊花展に合わせて、見ている。関係者からは「今年は気候が安定せず、会員は苦労しながら大輪の花を育てた」と話した。今後、展示を続けるべく、多くの人が活動を知ってもらい、会の仲間を増やしていくと意気込む。

弘法山にネモフィラ 新たな挑戦で種まき



ネモフィラの種をまく部員

青年部は18日、弘法山でネモフィラの種をまいた。同部が「花いっぱい運動」の一環で、多くの人に花を育ててもらおうと取り組んでいる。今年、部員が育てた花を市に提供し、弘法山に花を植えるのは初めて。部員が育てた花を市に提供し、弘法山に花を植えるのは初めて。

ソバ品質上々 形質や水分量検査



JAはだのは11日、本持ち寄った4.3tを確保した。検査員を務める営業販売部の職員が、ソバを丁寧に検査している。

地域伝統の漬物食べて 加工グループが対面販売



じばさんずで加工品を対面販売

地区漬物研究会、「丹沢のさくら漬」を出荷する千村若竹会加工部の3グループで構成。例年は、市民の日や農業まつりに出店していたが、イベントが中止となっていた。今年、出荷先の同店で初めて対面販売した。来店者にお勧めの食べ方を紹介しながら、地域伝統の味を協力して守り続けている各加工グループの取り組みも伝えた。

土壌診断の 結果を分析



秦野市農業後継者クラブ「秦友会」は10月20日、本所で土壌診断の結果を分析した。同会が土壌診断を実施するのは初めてで、栽培技術の向上につなげることに、会員同士で情報交換する。参加者は慎重かつ大胆に一手を打ち、日頃の鍛錬の成果を発揮した。大会の結果は次の通り。

堀山下で「手打そば」を営む阪間豊さん。秦野市で生まれ育ち、両親がそば店を経営していたこともあり、幼い頃から料理に興味を持っていた。高校卒業後は東京の料理学校に1年間通い、調理師免許を取得。その後銀座や新橋で板前として働きながら技術を磨いた。2001年に両親が同店をオープンしたことをきっかけに秦野に戻り、営業を手伝い始めた。

堀山下の「阪間 豊さん(51)」

生産者との関係を大切に

女性部は10月28日、生活協同組合ハルスシステム神奈川と連携し「南はだの村七福神めぐり」を行った。JA女性部員と生協組合員の交流の場をつくり、親睦を深めることが目的。50人が参加し、市内の神社や寺などを巡った。

互いに交流深めて 女性部

エダマメ収穫保護者も学ぶ。北幼稚園園児82人は10月21日、菩提の畑でエダマメを収穫した。

エダマメ収穫保護者も学ぶ。北幼稚園園児82人は10月21日、菩提の畑でエダマメを収穫した。

エダマメ収穫保護者も学ぶ。北幼稚園園児82人は10月21日、菩提の畑でエダマメを収穫した。

文芸の窓

「俳句」(酒井 敏光 選)
所在なく鶴折る冬の葉包紙 菊池としえ(菩提)
腰痛を忘れて居たり紅葉狩り 志賀 明子(千村)
立ち寄れば三保の松原秋の浜 芦川 松江(八沢)
過疎村の田仕舞稲渾の煙立つ 石原 松枝(沢沢)
丘陵の茶の花日和友おくる 高橋 順子(大森町)
虫食いの落ち葉の穴や漫る寒 柳川みち子(栄町)
吊り橋に大き欄干石落日和 佐藤英美子(南矢名)
芒銀色風をさばいて晴れ渡る 森高 由子(沢沢)
霜月や山小屋閉さす時愈々 高島美和子(名古木)
コスモスや彼方こなたに浮浪雲 吉田 清美(沢沢)
たまずさの連なる風葬とやかくや 選者

「短歌」(久保寺 富男 選)
秋晴れに孫子誘いてランチする 石田こずゑ(水神町)
心踊りてコロナ忘るる 評 心も行動も拘束された2年間であつた。それが解除されたことの喜びを率直に歌っている。でも、消滅したわけではないので、油断は禁物。
山里の施設より響くブラバンのマーチにしばし刈る手休めぬ 細田 富士(千村)
評 情景が目に見える。下の句(鎌を休める)を添削した。
ランダムに表示された風景をたのしみにつつまウス操る 八木 実(鶴巻北)
コンサートも電車に乗るのも二年ぶり 心満ちて聴く交響曲新世界 安居院輝雄(上大槻)
秋風にもう懐かしむ夏の陽と 開け放された部屋での午睡 水落美和江(鶴巻南)
空梅雨の今年甘藷は小太りで 味はホクホク甘味充分 伊東 久(沢沢)
どこを旅して来たのやら令和三年五百円玉 古びた財布に光り輝く 今井 かめ(羽根)
無難紙に綴る文字のやや曲がり 命衰ふ証しと思ふ 選者

※選者による添削あり

今月の理事会

11月22日に理事会を開
催し、次のことを審議
しました。
▽2021年度仮決算
監査意見書に対する顚末
▽2021年度秋の座
設について
▽西支所新事務所の建
設について
▽信用事業手数料の改
正および取扱項目の新設
について

農機レンタル講習会受講を 剪定チップパー利用に必須

JAはだのは、農業機
械利用事業の一環で、組
合員に剪定(せんでい)
チップパーを貸し出して
ます。機械使用時の事故
防止と安全確保のため、
利用する方には必ず事前
に講習会を受講するよう
お願いしています。
今年度の講習会を次の
通り開催しますので、お
気軽にご参加ください。
これまでに受講したこと
がある方は、再度の受講
は不要です。

税務相談日 12月10日(金)
午前9時30分～
法務相談日 12月20日(月)
午後1時30分～
場所 本町支所
予約制です。事前にお電話にてご予約をお願い
します。受け付け順に相談時間が決まります。
受け付け・ご予約は協同コンサルトはだの
☎81-2329

◎日時 2022年1
月8日(土) 午前9時か
後日、受講済証を渡し
ます。

◎場所 本所農業機械
センター前
◎対象者 JAはだの
組合員
◎内容 剪定チップパー
の取り扱いについて
◎申込方法 生産組合
回覧で申し込み
◎申込期日 12月26日
(日)、27日(月)の組
合員訪問日
◎その他 受講者には
後日、受講済証を渡し
ます。

縫いぐるみや人形 思い出と共に供養

JAセレモニール
はだのは、縫いぐるみや
人形を丁寧に供養し、処
分させていただきます。
今年は感染症対策のた
め、供養式前日から受け
付け、内覧会や試食会な
どは行いません。分散来
場とマスクの
着用のご協力
をお願いしま
す。

縫いぐるみや人形を供養(2019年)

たくさんの方の縫いぐるみや人形を供養(2019年)

◎受け付け
日時
▽12月18日
(土) 午後3
時～同5時
▽12月19日
(日) 午前8
時～同10時
◎供養式
12月19日(日)
午前11時から
◎供養費

JAグリーンは農家を応援します



生産資材3% オフキャンペーン

JAグリーンはだのは12月4日
(土)～12日(日)、種子を除いた
全ての生産資材を3%引きで販売し
ます。お得なこの機会にぜひご購入
ください。
お問い合わせはJAグリーンはだ
のまで。☎81-7719

秦野の 農家ご飯

ツナちらし

東支部 河野 由美子さん

■材料(4人分)■
白米2合、干しシイタケ30g、ニンジン中1
本、キュウリ2本、卵
2個、ツナ缶140g、
A(干しシイタケの戻
し汁、しょうゆ、砂糖、
みりん各大さじ2)、
B(砂糖小さじ1、塩小さじ1/2、マヨネー
ズ小さじ1)、合わせ酢(酢大さじ4、砂糖大
さじ3、塩小さじ2/3)、塩少々、サラダ油
大さじ1、焼きのり適量

＜作り方＞
①水で戻した干しシイタケとニンジン粗みじん
切りにし、Aと一緒に鍋に入れ、中火で煮
る。
②キュウリは薄切りにし、塩をまぶしておく。
③フライパンにサラダ油を入れ中火で熱し、溶
いた卵とBを入れて炒り卵を作る。
④白米に合わせ酢をまぜ、汁気を切った①を混
ぜる。
⑤お皿に④を盛り、その上に②、③、ツナ缶、
刻んだ焼きのりをトッピングする。

＜ひとことアドバイス＞
お好みで梅酢漬けショウガを入れると、色合
いが良くなります。干しシイタケとニンジン
の煮物は、前日までに作っておくと当日の作業が
スムーズにできます。

長寿者に記念品贈呈

おめでとーございま
す。末永くお元気でござ
いください。

88歳(米寿)

▽大根地区 植松秀夫
(南矢名) 田村やす子(北
矢名) 府川哲彦(鶴巻南)
▽本町地区 飯塚シツ
エ(曾屋)
▽北地区 山口福蔵
▽西地区 諸屋繁(沢)

77歳(喜寿)

▽南地区 和田正昭
(清水町)
▽西地区 柏木カヨ子
(千村) 小島フジ江(沼
代新町)
▽上地区 山本康衛
(菖蒲)
※自己申告ですので、
該当の方は誕生月の前月
末までに各支所・支店に
ご連絡ください。

花き部会鉢物部は10
日、市内圃場を巡回して
シクラメン立毛共進会を
開いた。審査の結果は次
の通り。

▽優秀賞 富田茂靖
(平沢)
▽優良賞 高橋福太郎(菩提)
▽優良賞 柏木元樹(横野) 古
谷孝行(菩提) 佳良賞 岩
田貢(堀西) 牧石淳
(八沢)

花き部会鉢物部は10
日、市内圃場を巡回して
シクラメン立毛共進会を
開いた。審査の結果は次
の通り。

▽優秀賞 富田茂靖
(平沢)
▽優良賞 高橋福太郎(菩提)
▽優良賞 柏木元樹(横野) 古
谷孝行(菩提) 佳良賞 岩
田貢(堀西) 牧石淳
(八沢)

このち・地域を
未来につなぐ
これからの
協同組合間連携
石田正昭 編著

協同組合同士が連携し
助け合うことを意味する
「協同組合間協同」。近
年は持続可能な開発目標
(SDGs)への関心が
高まることともに、新たな
連携も進んでいる。
多数の連携事例を紹介
し、そこから生まれる新
しい展開を考察。関係者
必読。
定価2090円(税込
2298円)

家の光 今月の新刊

今年の柿は甘くいよ

技術向上の努力実る

生産者 収穫作業で大忙し

10月下旬から、市内で柿の収穫が続いている。須藤忠三会長も、作業に励む一人。8㍏の園で「富有」と「太秋」合計30本を栽培している。有月末までに2・5㍏を収穫する見込みで、じばさな栄養が途切れないよう、収穫作業に汗を流している。

小まめに管理。病害虫の防除や摘蕾（てきらい）なども適期に行い、良質な柿を生産している。11月までには2・5㍏を収穫する見込みで、じばさなやJA特産センターに秦野産の柿を届けようとして、収穫作業に汗を流している。



柿を収穫する須藤会長

須藤忠三会長は「今年の柿は満足できるものに仕上がった。会員が丹精して育てた秦野産の柿を、ぜひ多くの人に食べてもらいたい」と笑顔を見せた。

委員の一人は「初めての開催だが、参加者から好評だったので良かった。今後も地域活性化に」と話した。

押し花アートを学ぶ 個性あふれた作品に 大根支所運営委が初の教室



台紙に押し花を貼り付ける参加者

大根支所運営委員会は10月21日、大根支所で押し花アート教室を開いた。管内に講師をしていて、組合員がいることから、今年初めて企画したもの。14人が参加し、講師が用意した地元産の花を使ってそれぞれ個性あふれた作品を作り上げた。

教室は、鶴巻南の久保寺敬子さんを講師に招いて実施した。久保寺さんは、押し花アートの手本をみせながら作り方の流れを説明した。参加者は、講師の作品を参考にしながら好みの額縁や台紙、押し花を選び、色合いやバランスを考慮しながら制作。押し花の配置を決めた後、ピンセットと接着剤を使って慎重に貼り付けた。その後、接着シートで全面を覆って完成させた。

地域の魅力再発見へ 上支所運営委が勉強会

上支所運営委員会が勉強会

上支所運営委員会は10月29日、かわじ荘で上地区勉強会を開いた。地域の祭礼や食、習慣を改めて見直し、地域の魅力を再発見しようと企画したもの。委員ら12人が参加し、地域の歴史や文化について学んだ。

祭礼などに詳しい矢口富雄委員が、勉強会の講師となった。地区内にあ



地域の歴史を再確認した勉強会

接近! おじまはす

(391)

本町の農家に生まれ育った三竹芳枝さんは、大学卒業後、本町小学校で教職に就いた。以来、市内の小学校で長年教壇に立ち、多くの児童を教え導いてきた。東小の校長を務めて定年退職した後は、趣味の時間を大切にしながら、JAや地域の活動にも協力している。



北矢名の三竹 芳枝さん(84)

何事も楽しく健康第一に

現在は、20㍏の畑で、梅と柿を栽培。収穫した梅でジャムやシロップを作り、自宅で味わう他、秦野市農産物品評会にも出品している。女性部の仲間に加わり、現在も公民館の書

て上地区のことを知り、地域ならではの面白さを再発見するきっかけになった。今後さまざまな

やえのちゃんびーなマンの「JAってなに??」



びーなマン



やえのちゃん

鳥取県から秦野市に移住してきた。秦野の葉タバコ栽培農家の生活安定に努めた人物の一人よ。栽培する中で生まれる農家のさまざまな不満を解消するために尽力したの。

災害の被害を受けた農家の救済制度をはじめ、耕作組合の振興と積極的な活動を促すため、経費補助の制定を計画したのよ。このような業績を後世に伝えるために、曾屋の元秦野たばこ試験場前に中村氏の顕徳碑（しょうとくひ）を建てたの。今はJAはだの本所の敷地内に移転しているから、見つけてみてね。



びーなマン

葉タバコ支えた中村枝幸

こんなに偉大な人だったなんて知らなかったよ。教えてくれてありがとう、やえのちゃん！

三竹さんは「何事も楽しみながらやっている。今後も健康第一で体を大切に、自分のペースで好きなことを続けていきたい」と笑顔で話した。